

月刊「キリスト教書評誌」

# 本のひろば

February  
2022 **2**

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2022年2月1日発行(毎月一回1日発行)第770号

● 出会い・本・人

「古典」の魅力 飯田 仰

● 特集 三浦綾子をもっと知るには

この三冊！ 上出恵子

● 本・批評と紹介

大貫 隆著 イエスの「神の国」のイメージ 山田耕太

袴田康裕訳 ウェストミンスター大教理問答 朝岡 勝

及川 信著 ルカ福音書を読もう 下 森島 豊

飯 謙、春日いづみ、石川 立、石田 学、西脇 純著

聖書協会共同訳 詩編をよむために 荒瀬牧彦

塩屋 弘著 祝福された人生の秘訣 鎌野善三

大頭真一著 何度でも何度でも何度でも愛 徳田 信

竹ヶ原政輝著 読める、わかる、聖書のストーリー 小崎 眞

小友 聡著 旧約聖書と教会 及川 信

M・デイペリウス著/H・コンツェルマン改訂増補/山口雅弘訳

牧会書簡注解 青野太潮

ペリー・B・ヨルダー著/河野克也、上村泰子訳

シヤローム・ジャステイス 南野浩則

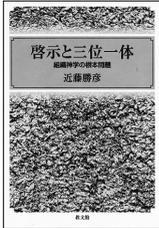
朝岡 勝著 光を仰いで 石原知弘

三浦永光著 聖書と農 大内信一

既刊案内

書店案内

オンデマンド  
待望の復刊!



## 啓示と三位一体

組織神学の根本問題

近藤勝彦 著

イエス・キリストの「歴史的啓示」から三位一体の神への理解、さらに内在的三位一体から神の永遠の意志決定に基づく救済史の理解に至る。著者の組織神学の基本構想とそれに基づく諸テーマを扱った論文集。

●A5判・上製・310頁・定価8,580円



## ディアコニッセの思想と 福祉実践

ある奉仕女の人物史を中心に

坂本道子 著

キリストの福音を伝える  
奉仕の業

19世紀ドイツで困窮者の救済のため誕生した、「ディアコニッセ」と呼ばれる献身女性性の集団。その理念に共鳴した日本初の志願者・天羽道子(ベテスタ奉仕女母の家所属)の働きを取り上げ、詳細な記録と著述からディアコニア活動の意義を考察する。戦後日本におけるキリスト教社会福祉事業の知られざる一面を探った意欲的研究。

●A5判・上製・306頁・定価4,840円

好評発売中!

## 『ハイジ』の生まれた世界

ヨハンナ・シュペーリと近代スイス

森田安一 著



不朽の児童文学『アルプスの少女ハイジ』。作品の深層と作者の人物像に迫るべく、激動の19世紀スイス史を俯瞰し、牧師の祖父、宗教詩人の母の生涯にも光をあて、家庭環境や交友関係を史料から仔細に探究した画期的試み。とりわけ、当時のディアコニッセの教育を受けた友人との交友は、生涯を通じて彼女の多くの作品にヒントを与えたと語られている。

●四六判・上製・240頁・定価2,530円

## 東京の白い天使

近代日本の社会改革に尽くした

女性宣教師キャロライン・マクドナルド

M・プラング 著 鳥海百合子 訳

大正期の日本社会改革に身を献げたカナダ人宣教師の記録。ある日、自分の指導するバイブル・クラスの男性が妻子を殺害したことを機に、受刑者の救済活動、刑務所伝道、女性解放、労働運動など多方面に尽くす。日本YMCA創設者。

●四六判・並製・474頁・定価3,850円





## 「古典」の魅力

飯田 仰

コロナ禍前、私は職務上旅することが多くあった。長旅で読書を楽しむのが習慣となっていたが、ある時手荷物検査で中身を全部出され、13冊も携帯していたのには我ながら驚嘆した。

私は二人の人物から読書の重要性を教えられた。一人は私の父、そしてもう一人は母教会（日本キリスト教団上尾合同教会）の牧師であった秋山徹牧師である。

父潔は聖書をこよなく愛し、傍らには常に聖書があった。聖書を読み、御言葉に聴くことを生涯大切にした人で、その父の影響を受けて私自身も聖書を学ぶようになった。

秋山徹牧師からは神学を学ぶことの大切さを教えていただいた。長い間、祈祷会でカルヴァンの『キリスト教綱要』を講解されていたが、先生の解説を聴く度に心が燃やされる体験をした。また『熊野義孝全集』を読むことも勧められ、牧会での組織神学の重要性について深慮させられた。

後に、秋山牧師に触発され、私もカルヴァンを耽読した。カ

ルヴァンは聖書に精通していたが、古代教父の著作にも造詣があった。あのカルヴァンも「古典」を大切にしていたのである。そこで、カルヴァンを更に理解するためには私自身も古代教父を会得する必要性を感じた。アウグスティヌスはもちろん、意外と接点が少ないと思われるカッパドキア三教父との関連性にも私の関心が芽生えた。こうした「古典」を紐解くことで、より深遠な部分に触れられると思ひ、現在、講究を試みている。非常勤講師をさせていただいている高校や大学では、「古典」を丹念に読むことの有意性を常に強調している。今思えば、私の大学や大学院時代の恩師たちも、また愛読のC・S・ルイスも同様のことを語っていたことに気づかされる。

後代へと語り継ぐためにも、先代から受け継いでいるものが何かを吟味する必要があると思う。そのために書物と人との出会いが主によって与えられると痛感している。

（いいた・あおく〓日本同盟基督教団国外宣教総主事）



## 三浦綾子をもっと知るには

# ▲この三冊！

上出恵子（かみで・けいこ・九州産業大学教授）

三浦綾子とえば、一九六四（昭和  
三九）年、「生まれてはじめての小説」  
である『氷点』が朝日新聞社一千万円  
懸賞小説に当選し、鮮烈なデビューを  
果たした作家である。また、クリスチャ  
ンとして「小説を書くことは信仰生活  
なのである」「キリストの福音を伝え  
ようとして書いている」と明言し、作  
家活動を続けたことでも知られている。  
テレビドラマ化され、第一回から  
22・6%の視聴率で最終回には42%と  
なつて世を騒がせ、ブームとなつた『氷

点』もテーマは〈原罪〉であつた。三  
浦と同じ日本キリスト教団旭川六条教  
会の明治の頃の教会員で、塩狩峠の鉄  
道事故で亡くなつた鉄道員・長野政雄  
を原型とした『塩狩峠』は〈犠牲〉、  
拷問によつて悲惨な死を遂げたプロレ  
タリア作家・小林多喜二をその母・セ  
キが語る『母』は〈ピエタ〉、十勝岳  
噴火とそれに伴う火山泥流に襲われる  
開拓農家を描いた『泥流地帯』、また『天  
北原野』も「善人が、なぜ故なき苦難  
にあうのか」というヨブ記に示される

〈苦難〉であつた。

このような三浦綾子とその文学に対  
して、戸惑いと批判は当初からあつた。  
近代文学の伝統においては三浦のよう  
にキリスト教、つまり宗教を全面的に  
打ち出した作品は、護教文学、宣教文  
学、もしくは主人持ちの文学としてそ  
の文学性に疑義がもたれるのが常だつ  
たからである。しかしながら三浦は、  
このような戸惑いや批判を承知の上で  
数々の作品を書き続け、その作品は確  
実に読者を得てきた。さらに言えば、  
そのような読者の中から多くの受洗者  
を生み出してきたのであつた。

信仰の土台にしかと立つ作品を世に  
送り出し、深い共感と支持を多くの読  
者から得てきた三浦綾子とその文学を  
「現代の奇蹟」と評したのは佐古純一  
郎であるが、このような三浦の作品は、  
文庫をはじめとする紙媒体だけでなく、  
今は全て電子書籍化され、「三浦綾子

電子全集」（小学館）で読むことがで  
きる。また、『氷点』の舞台でもある  
旭川市の見本林（外国樹種見本林）に  
建つ三浦綾子記念文学館では、所蔵の  
資料調査から発見された三浦綾子およ  
びその文学に関する出版がその時々々  
になされている。

二〇二二年は三浦綾子の生誕百年で  
あるが、これを契機に三浦綾子をもつ  
と知るために取り上げてみたいのは、  
次の三冊である。

### ○三浦綾子・三浦綾子記念文学館編著 『氷点』を旅する』

『氷点』が世に出て四〇年の節目の  
年に出版された。序の「三浦綾子がつ  
づるあらすじ」は、三浦が朝日新聞社  
に応募する時に提出した「あらすじ」  
で未発表（三浦綾子記念文学館所蔵）  
のもの。応募時の『氷点』のおおよそ  
が分かり、『氷点』の深読みに誘われる。

たとえば、戦中、戦後の設定だつた応  
募時から戦後の出来事になつた発表  
作品では、その日常性が強調され、今  
もなお読者を惹きつけるものとなつて  
いることが自ずと理解できる。また、  
陽子の実母の登場など、のちの『続  
氷点』につながるものが応募時から既  
に存在していたことも興味深い。

このように『氷点』の魅力について  
改めて考えさせられる本著は、同時に  
第五章「その時代は氷点をどう読んだ  
か」を中心に、一九六四年という戦後  
日本の大きな変わり目である時代が生  
み出した作品であることを詳らかにす  
る。

作品のテーマ〈原罪〉は特異なもの  
のように思われるが、遠藤周作が『沈  
黙』を書き下ろして発表したのは一九  
六六年。また、時代小説の泰斗で独自  
の作品世界で今もなお多くの読者をも  
つ山本周五郎の中絶した最後の作品

『おごそかな渇き』（一九六七）は「現  
代の聖書」を書くことと述べて取り組んだ  
ものであつた。

「戦後文学の変種」と『氷点』を喝  
破したのは文芸評論家で三浦綾子記念  
文学館初代館長であつた高野斗志美だ  
が、「もはや戦後ではない」（一九五六  
年経済白書）が当然のこととなつたこ  
の時期、戦後文学が向きあつた根源的  
なものが宗教、とりわけキリスト教に  
関わつて浮上してくる、そのような中  
に三浦とその作品もあつたのである。

現在、本著は絶版になつているが、  
『氷点』と合わせて『氷点 特装版』と  
なる予定と聞き、ここに紹介すること  
にした。

### ○三浦光世『青春の傷痕』

三浦の作品は、『塩狩峠』の頃から、  
三浦の口述を夫・光世が書きとめると  
いういわゆる口述筆記によるもので

あった。十三年間の結核療養生活を経験した三浦のおもに健康上の理由からではあるが、この執筆スタイルがじつは三浦文学の本質に関わるものであり、三浦文学はコラボレーション（協働）をその特質とするとかつて指摘したことがある。この考えは今も変わらないが、コラボレーションとは、ジャズのジャム・セッションや連歌・連句などのようなもので、創造的な行動や関係の中でつねに生じ、「いわゆる通信情報」の閉鎖系のコードではなく、自己言及をふくむメタフォリカル（隠喩的）で物語的なオープン・コード」（井上輝夫「ポスト・モダンとコラボレーション」）を特徴とする。

自宅二階の茶の間のような仕事部屋で向き合い、三浦が語る言葉を、一区切りごとに「ハイ」とか「うん」とか返事をしながら最初の読者として作品を受け止めていく光世を前に、三浦の

創作はいっそうリアルティーをましていく。このような執筆の様子は、書齋に閉じこもって一人呻吟しつつ執筆するという従来の作家の姿から程遠い。（同行二人）ともいうように、（共にあること）は宗教の本質である。そのことを証しするかのような光景が三浦の仕事部屋では繰り返されていた。

約聖書をよく読んでいた。以上のような光世の生い立ちには、やがて『泥流地帯』になぞるように描かれていくが、この『泥流地帯』のみならず、光世の経験や体験、また光世とのやり取りが作品成立に関わったり、また組み込まれていることを本著は明らかにしてくれる。

### ○石井一弘『愛のまなざし—三浦綾子の舞台を旅する—』

東京生まれの光世は、三歳の時に家族とともに北海道に移り住む。結核になった父が、自身が開拓して両親を呼び寄せた滝上たきのぼに戻ることを決意したからであった。まもなく父は三二歳で死に、母は手職を身につけるために三人の子どもを残して家を出た。光世は母方の祖父の家に預けられ、育った。この祖父は、二〇歳頃に洗礼を受け、旧

三浦綾子は文学アルバムや写真集が多い作家でもある。『文学アルバム』（主婦の友社、一九九二）をはじめとする『幼な児のごとく／三浦綾子文学アルバム』（北海道新聞社、一九九四）、『生きること ゆるすこと／新文学アルバム』（北海道新聞社、二〇〇七）、また『写真集 遙かなる三浦綾子』（近藤多

美子・写真、講談社出版サービスセンター、二〇〇〇）、『永遠に・三浦綾子写真集』（後山一朗・写真、北海道新聞社、一九九九）などがすぐさま思い浮かぶ。

本著は、『氷点』と同じ一九六四年に朝日新聞社に入社し、カメラマン生活に入った著者が、定年後に三浦の作品の舞台を撮りはじめ、三浦の没後一

〇年で三浦の文章と写真で構成した『小さなロバ』を、さらにその一〇年後に作品に関する写真に自身の文章を加えて出版したものである。

写真が充実しているのは当然のことながら、そこに文章が加わることで本著では、写真と文章が呼応し合った、相即不離と言って良いか分からないが、不思議な場が醸成されている。それは

物語というべきものなのかもしれないが、そのような世界に入り込んだ私たちは、著者と一緒にととき三浦綾子の舞台を旅する。『氷点』は陽子が自殺を図った美瑛川流域の雪原だけでなく、アイヌ墓地の写真なので、なとと時に対話しながら、三浦綾子とその作品世界を満喫できる一冊となっている。



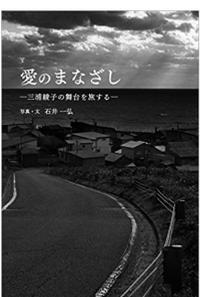
### 『氷点』を旅する

三浦綾子、三浦綾子記念  
文学館：編著  
北海道新聞社  
2004年  
A5判 180頁  
1,760円



### 『青春の傷痕』

三浦光世：著  
いのちのことば社  
2006年  
四六判 195頁  
1,430円



### 『愛のまなざし』

—三浦綾子の舞台を旅する—

石井一弘：著  
中西出版  
2019年  
四六判 128頁  
1,320円

# イエスの内面を 描き出す壮大な試み

〈評者〉 山田耕太



イエスの「神の国」の  
イメージ  
ユダヤ主義キリスト教への  
影響史  
大貫 隆著



大貫隆先生は主著『イエスという経験』（岩波書店、二〇〇三年。独訳二〇〇六年、英訳二〇〇九年）で、イエスの内面にあるイメージ・ネットワークを一気に描いた。続く『イエスの時』（岩波書店、二〇〇六年）で、その背景をユダヤ教黙示思想に遡り、パウロとの関連を指摘し、ベニヤミンの思想と対話して現代的意味を問うた。また『終末論の系譜』（筑摩書房、二〇一九年）では、新約聖書神学のスタイルで終末論に焦点を絞って、イエスの「神の国」思想をユダヤ教黙示文学から新約聖書を経て二世紀のキリスト教へ展開していく文脈に位置づけた。

本書の第一章「私のイエス研究」で以上の三書の関連を明らかにして、第Ⅱ～Ⅳ章で『イエスという経験』『イエスの時』に加えてイメージ・ネットワークの網目を繕い、第Ⅴ～Ⅵ章で『終末論の系譜』を補う議論を展開する。

経て「イエスの親族の終末待望」に至るまで、イエスの「人の子」イメージが継承されていることを跡づける。第Ⅵ章「フィロンと終末論」では、フィロンの究極はユダヤ教黙示思想の「魂の上昇の終末論」でも「宇宙史の終末論」でもなく、中期プラトン主義の魂の「帰昇」による「宇宙国家論（コスモポリス）」であることを解明する。

第七章「史的イエスの伝承の判断基準によせて」では、イエスのイメージ・ネットワークを探求してきた方法論は、タイセンが弟子のウインタートとの共著『イエス研究における基準の問題』で表明した新たな基準に照らし合わせて、それに合致していることを明らかにする。巻末の「付論1『ナザレ人』と『ナゾラ人』」「付論2 偽クレメンス文書」

第二章「死人たちには未来がある」（マタ八21―22／ルカ959―60）では、従来の解釈を否定し、イメージ・ネットワークの繋がりが「死者に未来がある」というイエスの復活観を前提にした新しい積極的な解釈を提供する。第三章「『神の国』の『十二人』（マタ一九28／ルカ二二28―30）では、イエスのイメージ・ネットワークの繋がりが「神の国」が「人の子」集団説に基づいた支配であることと正しく指摘する。第四章「イエスの変貌と『上昇の黙示録』」では、イエスの変貌物語（マコ九2―8）に対する従来の学説を否定して、ユダヤ教黙示文学の「上昇の黙示録」に属するもので、後の『ペテロの黙示録』への影響も明らかにする。

第Ⅴ章「ユダヤ主義キリスト教の終末論」では「ステファノの幻視」から義人ヤコブとエルサレム教会のペラ脱出をもそれぞれ複雑な伝承過程を後進のために解明しているが、極めて興味深い論考と要約である。

本書を含む四部作は、イエスの難解な言葉をイメージ・ネットワークというユニークな手法を用いて解明し、イエスの「神の国」思想を内面から把握する点においても、ユダヤ主義キリスト教を展望する点においても、画期的な著作である。本書は広範で徹底した探索と深い洞察による議論によって、四部作の締め括りとして説得力を増し加えている。ただ一点Q復元の決定版 *The Critical Edition of Q*（二〇〇〇年）との対話があればなおよいと望まれる。

（やまだ・こうた 敬和学園大学長）  
（四六判・三三六頁・定価四九五〇円・教文館）



## キリスト教書総目録

2022年版

（12月中旬発売）

### 中国のキリスト教

巻頭エッセイ 佐藤千歳氏 松谷 暉介氏

#### 内容

総記年鑑 辞（事）典 図説年表／全集（著作集） 叢書 講座／聖書学／神学／宗教学 思想 倫理／伝記（ノンフィクション） 信仰入門書 人生論 説教集／文学 小説 評論 手紙 詩 劇／音楽 美術 建築／教育 保育 心理 社会福祉／児童 絵本／讃美歌 式文／DVD CD カセット ビデオ／キリスト教関連雑誌 新聞 書名索引／著者索引／掲載出版社名簿

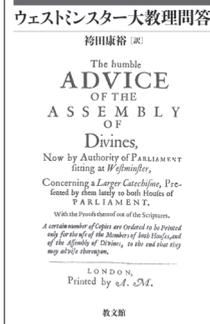
■ A5判 一般頒価1冊286円＋税 送品手数料200円  
■ お近くの書店様でお求めください。

キリスト教書総目録刊行会

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内  
TEL.03-3266-9521

## キリスト者の霊性を具体的・実践的に養う最良の手引き

〈評者〉朝岡 勝



## ウェストミンスター大教理問答

袴田康裕 訳



毎年、「信条学」のクラスで学生たちに「各種の翻訳を読み比べるように」と語っています。翻訳聖書の比較が有益であるのと同じく、信条も訳文の比較から学ぶことが大いにあるからです。

二〇〇九年に「ウェストミンスター信仰告白」（村川満氏との共訳）、二〇一五年に「ウェストミンスター小教理問答」を翻訳された神戸改革派神学校の袴田康裕氏による「ウェストミンスター大教理問答」の新訳出版を感謝します。同氏はスコットランドで学ばれ、ウェストミンスター諸文書に関する数々の研究を公にするとともに、同信仰規準を採用する日本キリスト改革派教会の教師として神学教育と教会形成を担う最適任の翻訳者です。

「信仰告白」、「大教理問答」、「小教理問答」のうち、一番馴染みが薄いのが「大教理問答」でしょう。全196問とい

の聖句や宗教改革者たち「スコوپ」としてのキリスト」の強調などから「目的」が相応しいと結論付けます（同書一一二―一四頁）。その後に出版された各訳文を見てみると、第4問は「視点」（鈴木訳）、「目標」（松谷訳）、「目的」（宮崎訳）、第157問は「範囲」（鈴木訳）、「目標」（松谷訳）、「目的」（宮崎訳）となっており、袴田訳は第4問を「目指す目標」、第157問を「目標」としています。「目指す」が添えられることで躍動感のある訳文との印象を受けます。

特色ある箇所として、ピューリタン神学の重要テーマでありつつ小教理問答では触れられない「聖徒の堅忍」や「恵みと救いの確信」の教えが、信仰告白第17章、第18章を説き明かす仕方第79問から第81問にかけて簡潔に表現されている点を挙げる事ができます。また大教理問答最大の

分量の多さ、論調の厳格さが「食わず嫌い」を助長してきたようです。しかし幸いなことに、私たちの手許には岡田稔訳（一九五〇年）、日本基督改革派教会信条翻訳委員会訳（一九六三年）、鈴木英昭訳（一九九七年）、松谷好明訳（二〇〇二年、改訂版二〇〇四年、三訂版二〇二二年）、宮崎彌男訳（二〇一四年）があり、今回袴田訳が加わったことでさらに各翻訳を読み比べることが可能となりました。訳語の比較で深められる内容理解の好例として、かつて石丸新氏が『改革派カテキズム日本語訳研究』（新教出版社、一九九六年）で指摘された第4問の「the scope of the whole」を取り上げます。同書では「scope」の語が第4問では「意図」（岡田訳）、「視野」（委員会訳）と訳され、第157問では「内容」（岡田訳）、「範囲」（委員会訳）と訳されることを比較し、「目標を目指して」（フィリピ三・一四）

特色である十戒論では、第98問から第152問にかけて各々の戒めの「求められていること」、「禁じられていること」が記されますが、第一戒（第104、105問）、第二戒（第108、109問）、第三戒（第112、113問）、第六戒（第135、136問）、第七戒（第138、139問）、第八戒（第141、142問）、第九戒（第144、145問）の詳細な答え方は安易に「律法主義的！」と読み飛ばさず、そこに込められた牧会的な意図を読み取っておきたい所です。第四戒の安息日を巡る定めや第五戒の「目上、対等目下」の人についての定めなどは、当時のピューリタンたちの置かれた歴史的状况を踏まえて理解したいところですので、いずれの日にか、訳者による注解書出版を！と願っています。

（あさおか・まさる 東京基督教大学理事長  
新書判・一六八頁・定価一五四〇円・教文館）



# カルヴァン小伝

アンリ・デンキンゲ 著  
アンリ・ファン・マイデン 版画  
遠藤正子\*訳



カルヴァン  
54歳10か月の生涯を  
ダイジェストで紹介

カルヴァンと  
その時代が  
身近に感じられる  
小伝と版画

A4判  
定価 1,320 [本体 1,200 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-136-6



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<https://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](https://mobile.ichibaku.co.jp)

## 心を神へと 目覚めさせる言葉

〈評者〉森島 豊



ルカ福音書を  
読もう 下  
下に降りて見つける喜び  
及川 信著



私たちは自分をハッとさせる言葉に出会うことを求めます。この世界の価値観に縛られているので、神が生きておられる現実に目覚めさせる言葉を求めているのだと思います。本書はまさに心を神へと目覚めさせる言葉が豊かに語られています。

なんとと言っても本書の魅力は短い言葉で急所を言い当てることです。次の言葉は説教準備をする者の心構えを示します。「ルカによる福音書は、神殿で始まり神殿で終わります。それは、礼拝から始まり礼拝で終わっているということでもあります」(二七六頁)。この言葉だけでもハッとさせられます。ルカ福音書を教会で説教する意味もはっきりしてきます。また本書を読んでいると「この世を生きる人を見下している」(五八頁) 自分に気付かされます。「自分の方が神様よりも上に立っている」(九四頁) という事

実を知ります。「私たちは気づかぬうちに、神よりも上に立ってしまいます。だから、人の上に立つなんて当たり前のことです」(九頁) という言葉は妙に納得させられます。本書のもう一つの魅力は、常識とされながらも本当は理由を知らない事柄を短い言葉で説明していることです。たとえばサドカイ派が復活を信じないことは知られています。その理由について、彼らが神の言葉として認める「モーセ五書には死人からの復活記事はありませんから、死人からの復活を認めませんでした」(一四八頁) と簡潔に説明します。サドカイ派が「ルカ福音書ではここにだけ登場します」(二四八頁) とサラツと言う言葉にもハッとさせられます。二二章で「弟子たち」がいきなり「使徒たち」となっていることなど(一九三頁)、気づかなかつたルカ福音書が伝える豊かなメッセージへと導いてくれます。

本書は単に聖書を説明しているのではなく、読者に変革が起こることを目指していると感じます。「これまでの次元に生きながら新しい次元「神の国」を生きることは、悲しいかな私たちにはできない」(一〇二頁) という現実と向き合います。目に見えるものしか見ようとしないうちに「悪魔を見ていない」という驚くべき事実が気づかせます。「悪魔は私たちの目を現象に向けさせ、その現象を生み出すものに向けさせません。そして、今の問題に目を向けさせ、世の終わりに向けさせません」(一六九頁)。著者はルカ福音書が語る物語そのものに、人間を愛と赦しに生きる存在へと変革させる力があることに気づかせ、物語の中へと自然に招き入れています。だから本書のどの箇所からもお題になられたキリストの十字架が響き渡っています。

近年、キリストの十字架と復活無しに語る説教が多く聞かれるなかで、著者は「人は聖書の言葉を見るとき、牧師が聖書の言葉を本当に信じているのか否かを見ている」(二五二頁) という問題に本気で取り組んでいます。復活における誤解にも切り込みます。「天国で、おばあちゃんはおじいちゃんにお茶を出している」を例に「天国の情景を今の自分を中心に描いている」(一五三頁) という箇所は必読です。「教会という名の『この世』」(七一頁) に妥協しません。不正な管理人のたとえ話の解釈も興味深いのでぜひ手にとって読んでいただきたい。本書は福音が力を取り戻す聖書の読み方を味わわせてくれる優れた良書です。  
(もりしま・ゆたか) 青山学院大学宗教学主任・准教授  
(四六判・二八〇頁・定価二八六〇円・日本キリスト教団出版局)

福音のことば  
対立を超える  
をヨハネ福音書に聴く



## ヨハネ福音書を読もう上 対立を超えて

松本敏之

差別と分断が深まる現代。この対立を超えることばを、ヨハネ福音書を通して伝えられるイエス・キリストの福音に聴く。上巻は10章までの黙想11編を取録。  
四六判並製・240頁・定価2640円

堅実な注解シリーズ最終巻



## ニューセンチュリー聖書注解 イアン・W・プロヴァン 渡邊さゆり訳 哀歌

最終回  
記本

悲嘆と訴えの詩歌、哀歌。全体の構造・特徴、作られた時代背景、詩に込められた神学、次々と入れ替わる話者の問題を整理しつつ、一節ごとの詳細な語句の解説を付す。  
A5判上製・194頁・定価5500円

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp (価格10%税込)  
<https://bp-uccj.jp>

### 新しい目をもって 詩編を味わう

〔評者〕  
荒瀬牧彦



聖書協会共同訳  
詩編をよむために  
飯 謙、春日いづみ、石川 立  
石田 学、西脇 純著



これはあなどれない本です。「詩編をよむために」というシンプルな題と、豎琴や動植物のイラストがあしらわれた美しい表紙から受けた印象は、軽いエッセイ集か簡単なガイドブックだろうというものでした。しかし読み応えのある中身にそんな予想をひっくり返されました。『聖書聖書協会共同訳』に原語担当や日本語担当の編集委員、翻訳者として、また検討委員として関わった五人の方々、それぞれの専門の見地から詩編を語る本書の内容は、さつと読んでぱっとわかる軽いものではありません。今流行りのオンライン講座でこの内容を受講するなら、本書の価格の五倍は払う価値があるでしょう。

第一章は飯謙氏による「詩編の基礎知識」です。書名と構成に関する簡単な説明の後、並行法や交差配列といった文学的技法の入門的な解説がなされます。近年の詩編研究

では「詩編をかなり明確な意図をもった編集体とする理解」が進んでいるとのこと。一五編から二四編は一九編を中心とするシンメトリーの集中構造を形成しているという解説には、隠された謎が解かれていく興奮を覚えました。

第二章では、日本語担当として主に旧約の詩文に携わった歌人の春日いづみ氏が、「礼拝での朗読にふさわしい」ものとするために何に心を砕いたかを実例と共に明かしています。九七編七節が「次に語られる主の声がより響くように」新共同訳と大きく異なる訳文となったとの説明や、言葉のイメージを湧き上がらせることを考えて仮名と漢字を使い分けていること、八三編がカ行音を響かせることでリズムを作っていることなどを知り、朗読すると一層よく感じられるこの訳の魅力がわかりました。

第三章は石川立氏による一二六編、一三七編、そして一

編の読み解きです。どれも、今までの自分の読みがいかに浅かったかを痛感させられる深い学びです。一編には、単純な「正しき者は栄え悪しき者は滅ぶ」応報論とは「逆の現実があった」のであり、「正しき者」とは貧しさや虚げや病を負う「ダイバーシティの状況に置かれた」人々である。この詩はその人々への「渾身の励ましの言葉であり、弱者としての立場を固持しようとする宣言」である、という解釈に胸が熱くなる感動を覚えました。

第四章では石田学氏が、なぜ悲しみや嘆きや報復の詩が詩編にあるのかを論じています。礼拝の場で読むのが憚られるような激しい言葉をどう考えればよいのか。深い悲しみ嘆きや報復への願いこそは、人が最も神を必要とする時であって、それを信仰から切り離し、信仰の詩から取り除

くなら、信仰が全存在的なものでなくなる。怒りを隠してしまうことは、神に対しても自分の魂に対しても正直でなくなるという主張は非常に説得的です。

第五章は西脇純氏が「詩編を日本語で歌う」という容易ではない課題についてカトリック教会の『典礼聖歌』によって説明しています。歌唱法の解説は不勉強の私には少し難しいものでしたが、作曲家高田三郎氏がソレーム唱法に出会ったのは「摂理的」であったということはよくわかり、詩編を歌うことへの関心を深められました。

今まで何千回、何万回と詩編を読んできた方も、本書によってまた新しい目をもって詩編を味わってください。

(あらせ・まさひこ) 日本聖書神学校教授、カンパウンド長老キリスト教会牧師

(A5判・一六〇頁・定価一二〇〇円・日本聖書協会)

### 聖書協会共同訳準拠の 「詩編」ガイドブック

## 詩編をよむために

聖書協会共同訳  
発行元：日本聖書協会 A5判、並製本、ジャケット掛け、160ページ  
定価 1210円(本体1000円+税) ISBN978-4-8202-9280-7

#### タイトルと その執筆者

「詩編の基礎知識―構成、技法、研究史そして……」 飯 謙  
「詩編に親しむ―心に泉を」 春日いづみ  
「川のある風景」 石川 立  
「天を仰いで神に歌う―悲しみ、嘆き、報復の詩がなぜ詩編にあるのか」 石田 学  
「詩編を日本語で歌う―「典礼聖歌」を手がかりとして」 西脇 純

多様な読み方が可能な詩編を、最新の聖書協会共同訳で味わうための道先案内となる、ガイドブックです。聖書協会共同訳の詩編の翻訳事業に携わり、各「専門の分野の第一線で活躍中の先生方による、それぞれの視点からの行き届いたレクチャーが、詩編の豊かな世界へ導いてくれること」でしょう。

お求めは全国のキリスト教専門書店  
またはwebへ

日本聖書協会

〒104-0061  
東京都中央区銀座4-5-1  
聖書館ビル  
e-mail: distri2@bible.or.jp  
https://www.bible.or.jp/



## 「信仰」と「現実」が 一つとなる秘訣

〈評者〉鎌野善三



祝福された人生の秘訣  
申命記に聞く！  
塩屋 弘著



本書は、申命記を一章ずつ解説することにより、祝福された人生とはどのようなものかを、様々な例話を用いて描いています。34章全て、その章題に「祝福」という語が含まれていて、神様の祝福の豊かさに心が暖かくなりました。特に感銘を受けた5つの章を紹介します。

6章「祝福への姿勢―聞け、イスラエルよ」

神が示された最も大切な命令は「主を愛しなさい」である。幼い頃、弟の誕生日プレゼントとして「少年〇〇〇〇」を買ったのだが、自分が読み終えるまで弟を待たせていた。自分の愛は身勝手だが、神の愛は御子を与えてくださるほどの愛であり、その愛の招きにお応えして生きていきたい。11章「祝福の知識―あなたがたは知らなければならぬ」荒野における40年の生活で、イスラエルの民は主の「しるしと御業」を知った。約束の地に入ってから、主の恵み

を感謝し、その御業に生きていくためだった。神のことを知らない人々に、この恵みを知らせる特権を自覚しよう。

15章「祝福の奇跡―惜しみなく与えなさい」

約束の地において、「惜しみなく与える」民となるなら、社会に奇跡がおきる。3億円の宝くじを買ったとき、はじめは全部献金しようと思っていたのに、後には三分一、十分の一と少なくなつた。宝くじを買うのでなく、それを神に献げるべきだった。明け渡す時、神の奇跡が始まる。

22章「祝福による実行―見ない振りをしてはならない」

同胞の牛や羊が迷っているとき、「見ない振りをするな」と命じられるのは、愛が自発的なものだから。律法を守ることが自発的でなければ、それは怒りを生み出してしまふ。自分だけが気づいたことを実行する機会は必ずある。

31章「祝福の継承―私は彼を任命する」

モーセがヨシユアを後継者にしようとしたとき、二人そろって神の前に立ち、一緒に神の命令を聞いた。私の父の死の一月半前、私も子どもたちも父と一緒に祈りをし、写真を撮った。十字架で死なれたイエスさまと共に、その復活の力を信じて歩むことほど大きな祝福はない。

塩屋先生とは数回お会いしただけの間柄ですが、この著書を読ませていただいて、その人となりが見え、この著書に込められていることに気づきました。

一つ目に、その優しさです。律法を単なる命令ではなく、神からの愛の語り掛けとして語られるからこそ、慰めがあり励みがあります。ありのままに神の前に立つときにこそ、主の祝福が注がれることを実感しました。

二つ目に、その正直さです。自分の失敗も隠すことなく

記しておられます。マスクの着用に抵抗する理由など、思わず吹き出してしまいました。そんな「ひねくれ者」でも愛してくださいている神の愛が、どの章にも満ちています。

三つ目に、その純粋さです。十字架と復活の福音に生きておられる姿が浮かび出ています。どの章においても、旧約聖書の一書を読んでいるとは思えないほど、主イエスの愛のまなざしを感じるのには、私だけでは足りないでしょう。決して難しくありません。あとがきにも記されています

が、「信仰」と「現実」が一つとなる秘訣を、ぜひこの書から学び取ってください。

(かまの・よしみ) 日本イエス・キリスト教団 西宮聖愛教会牧師

(四六判・一五二頁・定価一四三〇円・ヨベル)

**ヨベル新書の最新案内**

**鎌野善三** (33分間のクッドニュース)  
「5巻」の著者さま下りし

**チャレンジ!**  
**聖書通読**

「やらなくちゃ」読まなくて「今回こそ!」では続かない!  
秘訣は何だろうか!?  
忽ち再版準備! 新書判/160頁/1,100円

**キリスト教思想史の諸時代**  
全巻ご予約承り中

**金子晴勇**  
**エラスムスと**  
**教養世界**

盟友ルターとの対決で知られる  
稀代の人文主義者、その計  
り知れない知性の泉を、主著  
を足がかりに広汎に探る。  
新書判・288頁・1,320円

**早坂文彦** (西宮聖愛教会牧師) 新発売先生推薦!

**「洗礼」をめぐる**  
**今日聖書はなにを語っているか**

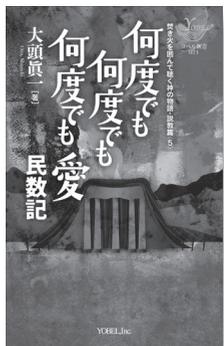
洗礼そのものは救いをもたら  
らさない。まして教会加入  
の儀式などではない。真摯  
な聖書釈義に基づく新・洗  
礼論! 早くも反響!  
新書判・224頁  
・1,210円

**金子晴勇** 東西の靈性思想  
キリスト教と日  
大反響、再版出来! 四六判・280頁・1,980円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL.03(3818)4851 FAX.03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

# 神の愛に貫かれ、聖徒たちとの共同作品である説教集

〈評者〉徳田 信



焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇  
何度でも何度でも  
何度でも愛  
民数記  
大頭眞一著



初めてキリスト教に触れる人々に、どうしたら聖書の豊かさを味わってもらえるだろうか。評者はキリスト教学校の新米教員として、日々そのことに頭を悩ましています。

さいわい創世記から出エジプト記にかけては興味深い物語の宝庫。お勧めしやすいです。しかしレビ記あたりになるといけません。細かな決まり事ばかりが目につき、私自身が聖書を閉じたくなります。民数記も同じ。第一章目からイスラエルの民が何人いるか数え上げていて、睡魔が襲ってきます。

しかし本書を読み始めてハッと目が覚めました。その細かな人数についての解き明かしを読むと、胸が熱くなり、涙がこみ上げてきました。注目されるのはイスラエルの民が概数ではなく、「何万何千何百何十何人」と細かく具体的に最後の一人まで数えられていること。大頭牧師は初任

ち続けます。あの放蕩息子の子の父のように。

民数記に描かれるイスラエルの民は、モーセや補佐役のアロンやミリアムを含めて繰り返し不信仰に陥ります。しかし神は、何度でも、何度でも、愛を持って関わり続けるのです。もちろん、神の愛を疑いたくなるような場面も登場します。約束の地カナン到着まであと数日のところで、神はイスラエルを40年間も荒野でさまよわせました。それはモーセら指導者と民の不信仰ゆえでした。

しかし大頭牧師によると、それは単なる罰ではありません。民がカナンの地で神だけを信頼し、しっかりと歩めるよう荒野で鍛錬するためでした。信仰とは信頼ですが、神にまつたき信頼を置くことは簡単ではありません。大頭牧師の表現によれば、誰であれ常に「工事中」なのです。ゆくりとしか進めないことを神はよくご存じです。ですから、何度でも、何度でも、愛をもって関わろうとします。「私の愛に信頼して欲しい」と願って。

神が忍耐をもって愛し続けているのは、掛け替えのない、私たち一人ひとり。大頭牧師の説教集に貫かれているのが、この神の愛に対する確信です。そのことは、大頭説教集の特徴として、製作に関わった人たちが、中には写真付きで丁寧に紹介されているところにも表われています。私自身、

地で礼拝出席者の人数ではなく、一人ひとりを数えることを学んだと述懐します。そして、神が関心あるのは数の大小ではない、私たち一人ひとりなのだと言えかけるのです。ひとが説教者として聖書に取り組む場合、学問的知見から学びつつも「客観的に」読もうとはしません。読み手自身と聴衆を聖書物語の内部に見だし、共に神と向かい合うべく取り組みます。その際、決定的影響を与えるのは説教者自身が培ってきた神観です。

大頭牧師にとつての神は、袴を履いて遠くから顔色を伺うようなものではありません。パウロが親しく「アバ、父よ」（お父ちゃん）と呼ぶことのできた父なる神です。この世の父親はいざしらず、聖書の描く父なる神は、子どもたちが何か失敗したとしても決して捨て去ることはありません。ご自分の愛のうちに戻って来ることをどこまでも待

紙幅が許されるならば著者の思いを汲んで、紹介される一人ひとりの名前を挙げたい思いに駆られました。

かつてスタンリー・ハワードという神学者は「英雄」と「聖徒」を区別しました。英雄は一人孤高に業績を達成し、社会に対して自分を印象づけようとします。他方、聖徒は神のわざを「ともに」行うことで神の恵みを分かち合います。本説教集はそのような聖徒たちによる共同作品です。

（とくだ・まこと）フェリス学院大学教員・大学チャプレン

（新書判・二六四頁・定価二二〇円・ヨベル）

村椿嘉信著 \*絶賛発売中\*

## 荒れ地に咲く花

生きることと愛すること

四六判・160頁  
定価1,320円  
ISBN978-4-909871-43-5

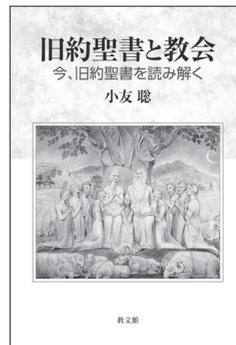
混沌とした時代にあつて、社会のさまざまな問題と関わりながら、どのように生きるべきなのか。イエスは「愛すること」が決定的に重要だと指摘した。

ヨベル YOBEL Inc.  
お問い合わせ: info@yobel.co.jp  
情報: http://www.yobel.co.jp



## 旧約の思想を現代の 教会形成に繋げる

〈評者〉 及川 信



旧約聖書と教会  
今、旧約聖書を読み解く  
小友 聡著



著者は、旧約聖書の中であまり注目されてこなかった知恵文学の専門家である。読者も『コヘレトの言葉を讀もう』（二〇一九年）やNHKで放送された「この時代の時代」（二〇二〇年、二〇二一年秋から月に一回再放送）などで、その働きの一端に触れたことがあるだろう。

著者は教会の牧師であり、旧約聖書の学者でもある。その著者にとって、旧約聖書は古代の「文献」ではない。それは歴史の中で、幾度も襲ってきた危機の中で信仰共同体を生み出してきた「信仰告白」の書である（第二部第五章「旧約聖書における信仰告白」、一九八頁）。だから、「旧約聖書のテキストの歴史性を保持した上で、それを予型ないし原型と（する）」（第二部第四章「予型論をとおしての説教」、一七八頁）。そういう形で聖書を読み、教会の礼拝で神の語りかけを説教する。その際、この言葉は個人に対し

て語られると言うより、神との契約を結んだ共同体が相手なのである。「契約という共同体の法を有し、救済の歴史性を絶えず想起し保持する共同体が契約共同体である」（第二部第二章「愛と法」、一四七頁）という言葉に、それは明らかである。そして、教会で洗礼を受けた信徒のみが聖餐にあずかる、所謂クローズド聖餐に関して、著者は「キリストの十字架と復活の歴史的出来事を記念する聖餐式をサクラメントとして保持していることと相即する」（同）と言っている。こういう所からも、旧約聖書と教会の現在の結びつきは明らかであろう。そして、著者は繰り返してその事実注目している。

話が前後するようだが、本書の構成は二部構成になっている。第一部は「旧約聖書の思想」であり、第二部が「旧約聖書と教会」である。第一部には、第一章「旧約聖書は

歴史をどう描いているか」にはじまり六つの論考がある。

誌幅の都合で一つ一つの論考の紹介は出来ない。しかし一箇所だけ紹介したい。著者は第一部第四章「秘密は隠される」の結論部でこう言っている。

「旧約聖書では秘密は隠されるのである。……自ら答えを見つけ出して、そこから前向きに生きていくことが要求される。旧約では不可知性がいわば跳躍台となり、それが反転して積極的で前向きな行動を生み出す。不可知性が倫理的主体性を創出するのである。それが旧約の知恵が提示する生き方である」（七四頁）。

第二部（五つの論考）の第三章「『契約』概念から聖餐問題を考える」ではこう言っている。

「少なくとも旧約の契約概念を基盤にして聖餐を考える

ならば、契約共同体として教会が保持してきた『閉じられた』聖餐理解こそが正当である。『閉じられた』聖餐は決して未受洗者を『締め出す』ものではない。洗礼を受けて契約共同体（教会）に加えられる日を皆が待っているのである。そういう仕方では、教会はサクラメントとしての聖餐を今日まで保持してきた。その伝統は今後も守り続けるべきだと思ふ」（二七一―二七二頁）。

繰り返しになるが、著者にとって旧約聖書は古代の文献ではなく、今の教会を形成する信仰告白なのである。新約も旧約も信仰共同体（教会）を形成し、世の終わりまで導く神の言葉として読み続け、聞き続ける神の言葉なのである。一人でも多くの方たちにこの本を推薦したい。

（おいかわ・しん）日本キリスト教団山梨教会牧師

（四六判・二〇八頁・定価二二〇〇円・教文館）

## 日毎の聖句とメッセージ、祈り 黙想シリーズ

ひと時の黙想  
全き心を求めて  
ストーミー・オマーティアン：著



詳しくはこちら  
NEW  
キリストにある  
自分を知る、日々の祈り。  
キリストにある私は全き存在—この真実を心に刻み、自由にされて生きるために。祈りの人として知られる著者が、聖書の御言葉を一つずつたどりながら「キリストにある自分とは何者か」を確かめていく素朴な祈りをつづります。  
●432頁 ISBN978-4-8202-9278-4

ひと時の黙想  
主と歩む365日  
マックス・ルケド：著  
●404頁  
ISBN978-4-8202-9273-9

1分間の黙想  
心からの祈り  
カレン・ムーア：著  
●400頁  
ISBN978-4-8202-9264-7

1分間の黙想  
祈りの力  
エドワード・M・バウンズ：著  
●400頁  
ISBN978-4-8202-9238-8

日本聖書協会：訳  
●縦135mm×横103mm  
●合成皮革装  
●スリープケース入り  
税込価格1,980円  
（本体1,800円）  
詳しくはこちら

お求めは全国のキリスト教専門書店  
またはwebへ

JBS 日本聖書協会  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル  
e-mail: distri2@bible.or.jp  
https://www.bible.or.jp/

「巨匠」の声を邦訳で読める  
喜びを可能にしてくれた本

〈評者〉青野太潮



牧会書簡注解

第一・第二テモテ書、テトス書

M・デイベリウス著

H・コンツェルマン改訂増補

山口雅弘訳



著者マルティン・デイベリウス (Martin Dibelius, 1883-1947) は、元ハイデルベルク大学神学部教授であり、一九一九年に執筆した Die Formgeschichte des Evangeliums (『福音書の様式史』) によって、新約聖書学における「様式史的研究」の先駆けとなった「巨匠」である。その研究は、「福音書伝承のなかに「範例」(paradigma)「物語」「伝説」「訓戒」「神話」などの「様式」(Form)を見出し、さらにそれらの背後に、教会共同体における「宣教」「説教」といった「生活の座」(Sitz im Leben)を推定した。それは R・ブルトマンにも大きな影響を与えて、より厳密な「様式史的研究」の頂点とも言うべき『共観福音書伝承史』の出版を促進させることとなった。ちょうど百年前(！)の一九二一年のことである。デイベリウスは『イエス』(原著、一九三九年)をも著したが、それはかつてデイベリウスの

許で学ばれた I・C・U 名誉教授の故神田盾夫先生によって邦訳されている(新教出版社、一九五〇年。W・G・キュンメルによる補訂版は、川田殖先生によって一九七三年に出版された)。

著者は、著者が Handbuch zum Neuen Testament (HNT) シリーズのなかで著した「牧会書簡」(第一・第二テモテ書、テトス書)の注解書の翻訳である。その第二版(一九三一年)は、元ゲッティンゲン大学神学部教授のハンス・コンツェルマン (Hans Conzelmann, 1915-1989) によって一九五五年に増補改訂されたが、それが本書の底本となっている。コンツェルマンは、その一年前の一九五四年に、「様式史的研究」後の一大潮流となった、福音書記者の編集と神学とを問う「編集史的研究」の古典的な名著と見做されている『時の中心——ルカ神学の研究』(田

本書は、著者が Handbuch zum Neuen Testament (HNT) シリーズのなかで著した「牧会書簡」(第一・第二テモテ書、テトス書)の注解書の翻訳である。その第二版(一九三一年)は、元ゲッティンゲン大学神学部教授のハンス・コンツェルマン (Hans Conzelmann, 1915-1989) によって一九五五年に増補改訂されたが、それが本書の底本となっている。コンツェルマンは、その一年前の一九五四年に、「様式史的研究」後の一大潮流となった、福音書記者の編集と神学とを問う「編集史的研究」の古典的な名著と見做されている『時の中心——ルカ神学の研究』(田

川建三訳、新教出版社、一九六五年)を著した。

Handbuch とは英語で言えばハンドブック(手引書、案内書)ということになるが、HNT シリーズのページのレイアウトは独特のもので、著者の訳した聖書本文がまず太字で印刷され、その下にその本文についての注解が、小さな活字でぎっしりとまったく改行なしにべた組みで収められている。そのなかには、当然参考文献もあれば、脚注に当たる部分もあり、当時の周辺世界の、主としてギリシア・ラテンの関連文献も、翻訳なしに縦横に引用される。余談になるが、一九七三年に出版された E・ケーゼマンの『ローマ書注解』も HNT シリーズからの一冊であるが(邦訳は、岩本修一訳、日本基督教団出版局、一九八一年)、当時評者が留学していたチューリッヒ大学神学部における講義のなかで、指導教授の E・シュヴァイツァー先生が、ケーゼマンの注解書を高く評価しながらも、「何とも読みにくくて」と笑っておられたのが、とても印象的であった。それほどに読みにくいレイアウトを、訳者の山口雅弘氏はきれいに整理し、さらに周辺世界の関連文献の邦訳をも周到に用意してくれた。

「牧会書簡」はパウロが書いたと記されているものの、パウロ書簡としての真正性は、デイベリウス当時すでに久

しく疑われており、彼もまたこれを偽書と判定している。ただし、その議論は極めて慎重なもので、例えば、牧会書簡でしか用いられない語彙が頻出する事実は、伝承の受容によるものである可能性もあるので、それだけでは決定的ではない、現に真正のパウロ書簡の間でも、背後の状況によって語彙が大いに異なることはある、それゆえ、真正性の問題を一面的に強調してパウロとの一面的な対決にだけ繋げるのは不適切な歴史的評価であり、むしろ「使徒後時代の教会の状況」のなかで「歴史的」に考察すべきだ、と余裕を持って主張される。

もちろん、その思想と神学が、パウロから大きく懸け離れており、個人的な情報が史的パウロの再構成には役立たないのは、言うまでもない。とくに第一テモテ二章九—一五節などに見られるような、弱者を軽視する姿勢が厳しい批判の対象となることは、「訳者あとがき」でも的確に指摘されているとおりである。訳者の恩師・川島貞雄氏の、本書の翻訳に際しての誠意に満ちた助力への謝辞が記されているが、この「巨匠」の著書をこのようにして邦訳で読める喜びを可能にしてくれた訳者の労を多としたい。

(あおの・たしお 西南学院大学神学部名誉教授  
A5判・三九二頁・定価五五〇〇円・教文館)

## 平和を正義の観点から 考える発想は聖書から

〈評者〉南野浩則



シャローム・  
ジャスティス  
聖書の救いと平和  
ペリー・B・ヨルダー著  
河野克也、上村泰子訳



「シャローム」は、旧約聖書の言語へブライ語で「平和」「調和」を意味する言葉に由来しています。「ジャスティス」は英語で「正義」を意味します。平和を戦争がない状態であると一般的に考える一方で、聖書が語るシャロームを私たちの内面（心や精神）の平安と理解されている読者も多いのではないかと思います。しかし、本書はそのような見方を良い意味で覆してくれます。むしろ、本書が言いたいことは、シャロームは神の価値観に基づく社会づくりのビジョンであることです。個々人の内面は大切な事柄ですが、聖書のシャロームは心の問題にとどまらず、人々が生きる現実や社会に関わることです。

本書の日本語版の書名を日本語に直訳すれば『平和・正義』となります。日本の社会・文化において、この二つの言葉を結びつけて考えられることはあまりないと思います。

めています。

聖書が語る社会的な視点について馴染みがなかったり、シャロームを教会や家庭の平和に限るべきであると考えたりする読者の方もおられると思います。しかし、聖書を丹念に読んでいけば、神のシャロームは教会の枠組みを超えて広がり、社会に根付かせるべきことが分かります。本書は聖書の言葉を取り上げて解釈しながら、神の意志であるシャロームの宣教的な意義についても説明しています。そのような意味で、シャロームの形成を委ねられた教会は社会に対して責任を負っています。それは不正義に対する「闘い」を避けて教会に籠ることではなく、社会的な弱者と共にこの世界はシャローム・ジャスティスに逆らうような価値

平和を正義の観点から考える発想は聖書そのものから来ている、そのことを本書は気づかせてくれます。なぜならば、聖書のシャロームは正義の実現そのものだからです。正義とは、悪人を懲らしめ、損害に見合った罰を与えることと一般には理解されています（これを応報的正義と言います）。しかし、本書が示している聖書の正義はまったく違った考え方をしています。聖書が主張する正義とは、ものごとがあるべき姿に戻ること（これを修復的正義と言います）であり、そのように試みることです。そのあるべき姿こそシャロームなのです。それを社会的な観点から考えると、抑圧されている人々、貧困に苦しむ人々、社会的な困難に追いやられた人々がその苦難の状況から解放され、人としての尊厳が認められて生きていくことができる状態に回復される、そのようなあるべき姿（シャローム）を聖書は求

観に満ちているからです。教会に期待される責任は宗教的な意義だけでなく政治や文化など多岐にわたりますが、特に本書は経済的な要素について繰り返し説きます。聖書が自らの理想とする経済政策を示しているからであり、人々の生活はどのような時代・場所においても経済活動そのものだからです。無意識のうちに資本主義社会を当然としている現代の教会にとってこの視点は重要です。

最後に、刺激的な本書を分かりやすい日本語で紹介してください。刺戟的な本書を分かりやすい日本語で紹介してください。本書が広く読まれ、理解されていくことを期待するものです。

（みなみの・ひろのり）日本メソナイトプレザレン教団福音聖書神学校教務

（四六判・三二〇頁・定価二五三〇円・いのちのことは社）

## 神学ダイジェスト131号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2021年12月発行  
A5版120頁  
定価640円（税込）

### 特集 今日のマリア論

巻頭言 今日のマリア論について

神学の内に示されるマリア論の新たな方向性

貧しい人々と現代の「霊」が示すマリア

マリア研究の母体としてのガリラヤ

正教会とカトリックにおけるマリア

カパシラスの『受胎告知』についての説教

聖ヨセフ年―父の心で― J・アロシヨ

岡 立子

M マツケンナ

I ゲバラ他

E・A ションソン

B・E デイリー

P・プロスベリ

H・ソナム

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

# 人生や社会の闇を経験し、 光を求める(まこと)ことば

〈評者〉石原知弘



光を仰いで  
クリスマス待ち望む25のメッセージ  
朝岡 勝著



『光を仰いで』という題名にしては本書の表紙の装丁は少し薄暗く感じるかもしれませんが、よく見るとそれは夜がまもなく明けようとしているところを描いたものであり、本書の意図をよく伝えるデザインであることが分かります(一転して鮮やかな中表紙の色もお確かめください)。手にしたところから始まる本書との対話は、頁をめくるごとに深められ、読み終えたときには読者は確かな希望の光へと導かれていることでしょう。

副題に「クリスマス待ち望む25のメッセージ」とあるとおり、光の到来であるクリスマススを主題とした説教集です。収められた説教は、著者が約二〇年にわたり牧師を務めてきた日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会で語られたアドベント・クリスマススの説教が基になっており、最後の一編のみ書き下ろしとなっています。25の説教に一月一日から順番に日付が記されていて、二五日のクリスマス

の日常に対して持つ意味を身近に感じながら読むことができます。説教にはやはり説教者の人生と信仰が映し出されます。東日本大震災の際に多くの働きに関わった経験を踏まえて記されている文章を、特にガラヤに目を注ぐ説教の中に見ることができます。そこには、教会と国家の問題をはじめとする政治や社会の課題にも目を向け積極的に行動してきた著者の信仰がよく表れているように思います。そして、そうした幅広い視野の根底には、著者の個人的な信仰の実存とも言うべきものがあります。私はクリスマススのメッセージ集に終末の希望を告げる黙示録からの説教が五編も取り上げられていることに特に関心をもって読みましたが、著者はその中で、「クリスマススの季節は私にとっ

て一日に一編ずつ読んでいけるようにされています。

「待つ」という姿勢に焦点を当てた四編の説教から始まり、四福音書からのクリスマスメッセージ、お馴染みの登場人物であるマリア、ヨセフ、羊飼いの博士たちのクリスマスストーリー、ローマ、エペソ、ピリピ、コロサイのパウロ書簡からのキリスト論の説き明かし、ガラヤという地に注目した四編、そして最後はヨハネの黙示録からクリスマスと再臨という御子の二つの到来を重ね合わせる五編となっています。クリスマススの説教と言えばマタイとルカによるものが定番ですが、本書の聖書テキストの選択はクリスマススの意味を持つ豊かな広がりを見せてくれます。

それぞれの説教は、丁寧な御言葉の説き明かしによって進められ、教理的なことについても信条文書などを引用しながら分かりやすく解説されています。また、随所に著者の経験からの証しが織り交ぜられており、御言葉が私たち

とともに、天の御国を見上げ、よみがえりの時を待ち望む時として過ごして来ました」とクリスマススへの思いを記しています(本文二二三頁)。この言葉の背景にある著者の高校生ときの経験については、一月二四日の説教をお読みください。

この書評が読まれる頃にはクリスマスという主題は少し季節外れとなっているかと思いますが、本書はクリスマスシーズンにだけ手にする説教集ではないように思います。人生や社会の闇を経験し、光を求めるときにはぜひ本書を開いてみてください。そこからまことの光が射し込んでくるはずですよ。

(いしはら・ともひろ)日本キリスト改革派東京恩寵教会牧師  
(B6判・二四八頁・定価一七六〇円・いのちのことば社)

## 三浦綾子の祈りと写真のコラボ



# 三浦綾子 祈りのことば

おちあいまちこ 写真  
三浦綾子の祈りのことば31編を精選、写真家・おちあいまちこの作品を配したコラボ作。三浦綾子の神様への感謝の祈りと美しい写真とが響き合います。2022年4月の生誕百年記念。  
A5判変型・80頁・定価1320円

## ナウエンの名著セレクション



ナウエン・セレクション  
第3回 記本  
死を友として生きる  
第3回 記本  
ナウエンが語る「死ぬことを生きることと同じくらい自分のものにする」とは。聖書の視点で死とケアを考える『最大の贈り物』と、交通事故の経験を踏まえて死の意味を思い巡らす『鏡の向こう』の二作を収録。四六判・192頁・定価2420円

# ナウエン・セレクション 死を友として生きる

ヘンリ・ナウエン 廣戸直江ほか訳 中村佐知 監訳

日本キリスト教団出版局  
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail [eiyou@bp.uccj.or.jp](mailto:eiyou@bp.uccj.or.jp) (価格10%税込)  
<https://bp-uccj.jp>

## SDGsの根底にあるべきものを示す良書

〈評者〉大内信一



聖書と農  
自然界の中の人の生き方を  
見直す  
三浦永光著



現代社会はあらゆる面で危機的状況にある。人類存亡にかかわる危機に直面していると言っても過言ではないであろう。そのような現実を世に知らせ、その原因について考察し、混迷する社会に本来あるべき姿、進むべき方向を示してくれるのが本書である。

著者は、まず三つの詩篇を通して、天地の創造主が人間を祝福するために創造された自然界について、また、その自然界の秩序に従って人間が営むべき生活、特に「農」および「農の営み」を基とする社会の重要性について語る。物質的豊かさを繁栄（祝福）の尺度とし、経済的合理性を追求するために「農」が軽んじられる社会の危うさ、自然の恵みに感謝することを忘れ、農薬や化学肥料などの工業製品、化石燃料に依存する工業化した歪んだ「農の営み」に警鐘を鳴らしている。今や地球規模の課題となっている

環境問題について、著者は次のように提言している、「現代の我々はこのような懸念の中に生きている。豊作と祭りをいつまで続けられるのか、不安の中に生きている。人類の活動を今後、大幅に抑制し、地球の生物資源の消費を年々再生する範囲に留め、また廃棄物を環境が吸収できる範囲内に留め、資源を大切に使う方向へ転換すべきときが来ている」（13頁）。真剣に耳を傾け、応答しなければならぬと痛感させられる。

著者が引いている聖句（「主は」……地から糧を引き出そうと、働く人間のためにさまざまな草木を生えさせられる」（詩篇一〇四篇一四節 新共同訳）、また「主の慈しみを待ち望む人」とは、主が雨と大地と太陽の働きを与えてくれるのを待ち望み、これを感じて受け、農の仕事に励む人。そして神からの贈り物である収穫物に感謝し、地域の

人々と分かち合い、楽しむ人である」（25頁）との言には農を営む信仰者として深い感動を覚え、新たな力を与えられる。

アモス書は、同じ農夫として親しみを覚えて読むことが、第2章「農夫アモスの預言」を通して改めてその存在意義の大なることを感じた。人類を祝福するために創造された自然界の秩序に従うことなく、むしろこれに抗い、「罪ある者」「主に逆らう者」（詩篇一〇四篇二五節）となって形成した社会の実状に対する預言者アモスの糾弾と警告が当時の社会状況を踏まえて語られている。

著者は、アモスが受けた啓示の光に照らして現代社会の諸状況に目を向け、その危機的状況およびその原因と行く末を指摘し、アモスのごとく厳しい警告を発している。「アモスより見たる現代日本」との副題を付した論考である。第5章「物質的な豊かさと恐怖」よりも「簡素な暮らしと助け合い」において、著者は単に警告を発するに止まらず、政治、経済、エネルギー、農業政策について「聖書が現代に語りかける言葉」を取り次ぎ、現代に生きる信仰者として、アモスを通して語られた神に真実に応答している。本書の優れた特徴である。

第3―4章「イエスの農耕生活」および「ヨハネ福音書

における農業」では、当時の農民たちの様子がよく伝わって来る。農を営む者として、人となりし神イエスになお一層の親しみを覚えるようになった。

補講「内村鑑三と農業」で紹介されている「農は国の基」、「農民は社会の土台」「小自作農を基礎とする社会」等の内村と英国人ジャーナリストJ・W・R・スコットの思想と合わせて、恩師小谷純一（愛農会創始者）の「農こそ人間生活の根底たることを確信し、天地の化育に賛して、衣食住の生産に精進せん。人生究極の目的は、愛の実践にあることを確信し、愛農愛人の生活に徹せん」（愛農会綱領より）、「農業者たる前に人間たれ」との教えを思い起こし、我が歩むべき道と使命（小自作有機農業、生産者と消費者の「提携」、ソーラーシェアリング⇨営農型発電等々）を再確認することができた。著者に心から感謝したい。

（おおうち・しんいち⇨農業・あだたら聖書集會、日本有機農業研究会理事）

（四六判・二〇三頁・定価一六五〇円・新教出版社）

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sesaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrikan_systen_0530@ghoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 穀穂センター・イワフ	022-223-2736	共用		fcwvk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-2 千葉リノアセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-4186	http://www.avaco.info	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.lighter.jp/~yokohamais/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-inei.co.jp/people/kyotan/	kyotan@mbox.kyoto-inei.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacds.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびらりの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkihan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.gojies.jp/matsuyama_107/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用		kcbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2021年10月~11月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
松谷好明 訳	三訂版 ウェストミンスター信仰規準	四六	370	2,420	一麦出版社	10/1
ジョン・ポール・レデラック著／水野節子、宮崎誉共訳／西岡義行編	敵対から共生へ —平和づくりの実践ガイド	新書	152	1,210	ヨベール	10/3
吉田裕子 著	海のかなたに行き着こうとも、 そこに「不思議」を訪ねる旅、 東北の隠れキリシタンの里へ	四六	264	1,650	ヨベール	10/25
袴田康裕 訳	ウェストミンスター大教理問答	新書	168	1,540	教文館	10/6
小友聡 著	旧約聖書と教会 —今、旧約聖書を読み解く	四六	208	2,200	教文館	10/6
大貫隆 著	イエスの「神の国」の イメージ—ユダヤ主義 キリスト教への影響史	四六	366	4,950	教文館	10/25
三浦永光 著	聖書と農—自然界の中の 人の生き方を見直す	四六	203	1,650	新教出版社	10/14
梅津順一 著	ヴェーバーとフランクリン —神と富と公共善	四六	456	4,950	新教出版社	10/25
ストーミー・オマーティアン著／日本聖書協会訳	ひと時の黙想 全き心を求めて	A6 変形	430	1,980	日本聖書協会	10/15
飯謙、春日いづみ、 石川立、石田学、 西脇純 著	聖書協会共同訳 詩編をよむために	A5	160	1,210	日本聖書協会	10/22
ヘンリ・ナウエン著 廣戸直江ほか訳 中村佐知解説	ナウエン・セレクション 死を友として生きる	四六	192	2,420	日本キリスト 教団出版局	10/15
V.コベルスキ著 澤村雅史訳	神学は語る パウロと律法	A5	194	3,740	日本キリスト 教団出版局	10/22
三浦綾子著／おちあいま ちこ写真／林あまり解説	三浦綾子 祈りのことば	A5 変形	80	1,320	日本キリスト 教団出版局	10/25
フロイド・ハウレット 著／大倉一郎訳	教会教を越えて—ハウレット 宣教師が北海道で見つけたもの	A5	304	1,980	日本キリスト 教団出版局	10/27
塩屋弘 著	祝福された人生の秘訣 —申命記に聞く!	四六	152	1,430	ヨベール	11/1
及川信 著	クリスマス小品集 みちびきの星	四六	176	1,540	ヨベール	11/15
大頭真一 著	何度でも何度でも何度でも愛—民数記	新書	260	1,210	ヨベール	11/15
原野百合 著	ベツレヘムの星II	四六	176	1,430	ヨベール	11/22
N. T. ライト 著／ 大宮謙 訳	N. T. ライト新約聖書講解1 すべての 人のためのマタイ福音書1—1-15章	四六	336	3,080	教文館	11/2
柳田敏洋 著	神を追いこさない—キリスト教的 ヴァイバサナー瞑想のすすめ	四六	300	2,200	教文館	11/25
笠井政子先生の信仰と 人を偲ぶ会 編	良い羊飼いに導かれ —笠井政子の信仰と伝道の生涯	A5	196	1,100	キリスト新聞社	11/11
吉岡契典 著	教会政治の神学—改革派の 教会政治原理とは 大森講座 35	四六	101	1,100	新教出版社	11/22
宮平望 著	旧約聖書 律法書 要約と概説	A5	258	2,200	新教出版社	11/25
辻学 監 修	新約聖書おもしろ クイズドリル	A5	96	1,100	日本キリスト 教団出版局	11/22
加藤常昭 著	み言葉打ち開くれば光を放ち —加藤常昭説教黙想集	A5	610	7,700	日本キリスト 教団出版局	11/25

# 福音と世界

## 2022年2月号

特集 植民地主義の現在形

寄稿者 石山徳子、鈴木昶生、森千香子

菊池恵介、吉田裕、ハウズイン・アズィズ

新連載「日本的キリスト教」を読む（山口陽

二）／好評連載 ルカ福音書（山崎ランサム和

彦）、霊性のエロジ（村澤真保呂、I Say a

Little Prayer 開かれる世界（栗田隆子）、福音

のフラグメント（宥住航）、いまを生きるみこ

とば（金退野）、教父学入門（土井健司）ほか

A5判・定価660円・¥70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

## から室集編

昨年八月、タリバンがアフガニスタンを制圧したというニュースを聞き他人事ではない重苦しさを感じたのは、自分が女性で、娘を持ち、自由がなければ成り立たない出版の仕事をしているからかもしれない。

彼らはなぜ宗教を理由に過激な行動をするのだろうか、飯山陽『イスラム教再考』（二〇二一年）を読んでみた。そこでコーランの「ジハードせよ」という命令は精神化して解釈されるものではなく、文字通り、不信仰者（異教徒）に対する戦争の義務だと知って愕然とした。

本書のかなりショッキングな内容を読んで、一つの問いを与えられた。よくユダヤ教、キリスト教、イスラム教はどれも一神教で、兄弟の宗教だという言い方がされるけれ

## 予告

### 本のひろば

### 2022年3月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）山野貴彦（書評）吉田裕子著『海のかなたに行き着こうとも、そこに』、N・T・ライト著『すべての人のためのマタイ福音書1』、三浦綾子著『三浦綾子 祈りのことば』、梅津順一著『ヴェーバーとフランクリン』、吉岡契典著『教会政治の神学』他

ども、この三兄弟は実は随分異なる顔をしているのではないか。何しろキリスト教には「イエス・キリスト」（イエスは救い主）という決定的な名前が刻まれている。

コーランが啓示としてジハードを命ずるなら、私たちに耳にはそれを乗り越えるように、「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」という主の御言葉が聞こえてくる。この宗教的にも複雑な世界で、キリストの掟を与えられている——それは思っていたよりずっと驚くべきこと、誇るべきことではないだろうか。

とはいえ、誰も手放しで、キリスト教の優越性を誇るようなことはできないだろう。ただ、敵対するすべての罪びとのため、命をささげて愛を完成した主キリストがおられるということ——その貴い福音を、私たちは今日も、こんなに弱くて壊れやすい、土の器に授かっている。（石澤）

# クイア神学の挑戦

クイア、フェミニズム、キリスト教

工藤万里江著 独自の思想活動によって大きな影響力を持つ三人の女性神学者を考察し、フェミニズム（神学）とクイア（神学）に共通する課題と断絶を明らかにすると共に、「クイア神学」の多様な内実、その課題と可能性を整理する。類書に乏しい本格的なクイア神学研究。俊英による待望の書。

1月25日

◆A5判・定価4730円

# 教会政治の神学

改革派の教会政治原理とは

吉岡契典著（よしおか・けいすけ氏は日本キリスト改革派板敷教会牧師）

教会政治はなぜ真剣な神学的考察の対象とされてこなかったのか。研究史を顧みてその偏りを批判しつつ、改革派教会の教会政治原理を探究する。【大森講座35】 ◆四六判・定価1100円

好評

# 旧約聖書律法書

要約と概説

宮平望著（みやひら・のぞむ氏は西南学院大学教授） 新シリーズ（全4冊） 刊行開始

好評

創世記から申命記までの五書（律法書）の内容を要約し、そのメッセージを解説する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込んだ、旧約を学ぶための好個の手引き。 ◆A5判・定価2200円

# ユダよ、帰れ

コロナの時代に聖書を読む

大反響

奥田知志著 コロナ禍で鮮明となった、人間を孤立させ、希望をくじく社会に、著者は、聖書の深い読みと長年の実践に裏付けられた洞察をもって、福音を大胆に対置する。著者の説教者としての面目躍如たる15編。 ◆四六判・定価1980円

# 遺跡が語る聖書の世界

長谷川修一著（はせがわ・しゅういち氏は立教大学教授） 聖書の世界の人々

はどんな家に住み何を着ていかなる食生活を送っていたのか？ 貨幣や暦は？ 聖書考古学の第一人者が興味尽きないテーマを平易に解説。

◆四六判・定価2310円



# ラディカル・ラブ クイア神学入門

パトリック・チェン著 工藤万里江訳

一切の境界線を消し、既成通念から「クイア」と見なされる過激な愛。啓示はラディカル・ラブである神のカミングアウト。性的少数者の視点から三位一体論を大胆に組み替えた神学。 ◆定価 2530円

# 虹は私たちの間に 性と生の正義に向けて

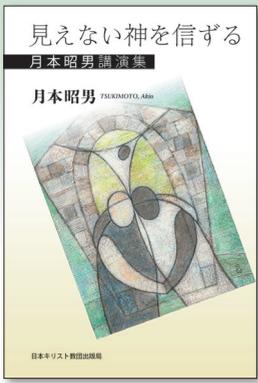
山口里子著



◆重版準備中

注目の既刊書から

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可  
 二〇二二年二月一日発行 毎月一回一日発行  
 本のひろば 第七七〇号 二〇二二年二月号



# 見えない神を信ずる 月本昭男講演集

2022年1月25日刊行予定

月本昭男

旧約聖書学・聖書考古学の第一人者による講演集。旧約聖書のメッセージが持つ現代性を愛・希望・ヨベルの年などのキーワードをもとに解き明かし、隣人愛・兄弟愛・良心の根底にある「見えない神」への信仰を力強く語る。

◆四六判 並製・200頁・定価2,420円

発行所 〒169-0051 東京都新宿区新小川町九一-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
 電話03-3360-1652 振替0126016520 振替0126016520  
 発行人 金子和人 編集人 白田浩一 印刷所 モリモト印刷  
 発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3360-1656

# 信仰生活 応援セット

好評  
発売中

現代日本に生きる牧師と信徒が、生活の実感に根ざして「基督教信仰の基本」を説き明かす6冊。求道者が信仰について学び始めるためにも、熟練の信仰者が基本を再確認するためにも、最適のセット。

◆セット価格  
定価**8,910円**  
詳しくはWEBで➔



ロングセラーの祈りの本  
『朝の祈り 夜の祈り』

セット購入特典

定価七八円(税抜七円) 783円  
 一年分一三〇〇円(送料共)